

平成29年11月15日
土 木 部

「世田谷区豪雨対策行動計画（平成30年度（2018年度）～平成33年度（2021年度））」（素案）について

（付議の要旨）

世田谷区豪雨対策行動計画（平成30年度（2018年度）～平成33年度（2021年度））」（素案）を取りまとめたので報告する。

1 主旨

区では、これまで、世田谷区豪雨対策基本方針（以下、「基本方針」という）、世田谷区豪雨対策行動計画（以下「行動計画」という）を策定し、豪雨対策を推進してきた。

現行動計画が、今年度で終了することとなり、基本方針に基づいて引き続き対策を推進するため、新たな行動計画を策定する必要がある。

これまでの行動計画に基づく取組みの成果を評価して課題を整理した後、それらを踏まえながら今後の豪雨対策についての検討を行い、「世田谷区豪雨対策行動計画（平成30年度（2018年度）～平成33年度（2021年度））」（素案）を作成した。

2 経過

平成21年10月 世田谷区豪雨対策基本方針 策定

平成22年 3月 世田谷区豪雨対策行動計画 策定

平成25年 7月 集中豪雨（床上浸水：132棟、床下浸水：32棟）

平成26年12月 世田谷区豪雨対策行動計画（後期）（平成26年度～平成29年度まで）策定

3 世田谷区豪雨対策行動計画（平成30年度（2018年度）～平成33年度（2021年度））」（素案）

別紙 世田谷区豪雨対策行動計画（平成30年度（2018年度）～平成33年度（2021年度））」（素案）及び概要のとおり

4 流域対策の強化に向けた行動目標

流域対策による雨水流出抑制量の行動目標（H33まで）を515千 m^3 （時間5.4ミリ降雨相当）に設定

5 主な策定内容

雨水流出抑制施設設置指導要綱の見直し

- ・道路、公園、教育施設の単位対策量の引き上げ
- ・計画書提出対象の引き下げ

グリーンインフラの促進（緑地等の保全・設置）

雨水貯留浸透施設設置促進のための新規条例の策定の検討

土のうステーションの活用促進（PR）

道路冠水状況の情報提供（リアルタイム配信の検討）

モデル地区における対策の推進

6 今後のスケジュール（予定）

平成29年12月	都市整備常任委員会（素案の報告）
平成30年 2月	区民意見募集（3週間）
4月	庁議準備会（区民意見募集結果、案の報告）
5月	政策会議（区民意見募集結果、案の報告）
5月	都市整備常任委員会（区民意見募集結果、案の報告）
6月	世田谷区豪雨対策行動計画（平成30年度（2018年度）～平成33年度（2021年度））策定

7 東京都の各流域豪雨対策計画への対応

行動計画で定める流域対策は、東京都の各流域の豪雨対策計画に基づく内容としており、東京都の豪雨対策計画が改定される場合には、その内容と整合を図る必要がある。

東京都は、平成29年度末には各流域の豪雨対策計画を改定する予定であるため、当該計画内容を確認した後、世田谷区豪雨対策行動計画（平成30年度（2018年度）～平成33年度（2021年度））（案）を策定する予定である。